

# 第 24 回九州地区農学部附属演習林技術職員研修

## 参加報告

三重大学大学院生物資源学研究科附属紀伊・黒潮生命地域

フィールドサイエンスセンター技術部演習林グループ

山本拓史

y-hirosi@bio.mie-u.ac.jp

### 1. はじめに

平成 27 年 10 月 25 日（日）～10 月 28 日（水）に鹿児島県の屋久島において鹿児島大学演習林が主催の第 24 回九州地区農学部附属演習林技術職員研修が開催され、全国 7 大学（東京大、岐阜大、三重大、京都大、九州大、宮崎大、鹿児島大）から 12 名が参加し、三重大学演習林からは山本が参加した。以下に標記の研修について報告する。

### 2. 研修日程

#### 1 日目（10 月 25 日）

- ・開講式
- ・屋久島環境文化村センターにて施設展示見学  
「屋久島の自然と文化」
- ・屋久島森林生態系保全センターにて講義  
「屋久島の森林と林業概要および世界自然遺産地域の保全管理の取組」
- ・屋久島自然館見学  
「屋久杉と人の歴史」
- ・屋久島環境文化研修センターにて講義等  
「自己紹介及び初日のふりかえりの発表および補足講義」

#### 2 日目（10 月 26 日）

- ・縄文杉登山（日帰り 10 時間登山）プロのガイドツアー体験
- ・屋久島環境文化研修センターにて講義等  
「登山研修のふりかえりおよび補足講義」

#### 3 日目（10 月 27 日）

- ・安房貯木場にて土埋木の見学（森林管理署による案内）
- ・宮之浦の間伐生産現場見学（森林管理署による案内）
- ・西部地域の照葉樹林と絶滅危惧種ヤクタネゴヨウ、大川の滝、亜熱帯植物見学

#### 4 日目（10 月 28 日）

- ・研修のふりかえり、意見交換
- ・武田産業にて屋久杉工芸品見学
- ・閉講式

### 3. 研修内容

今回の研修内容は、世界自然遺産の島であり国立公園にも指定されている「屋久島」において樹齢 1000 年以上の天然生のスギを指す「屋久杉」の巨木を主とする森林および森林管理の視察、屋久杉と林業の関わり方の講義および現地視察、プロのガイドツアーの体験、西部地域に残る原生林的な照葉樹林および絶滅危惧種ヤクタネゴヨウの見学等とするプログラムであった。

屋久杉においては、縄文杉（推定樹齢 7200 年、諸説あり）（図 1）をはじめとする屋久杉の大きさと数千年も生き続ける生命力に驚愕しつつ、1本の屋久杉自身の樹上に他の数多くの種類の樹木が根付く（着生）というその場所に存在し続けることによって構成される生態系にも驚かされた。この着生は、日本一雨が深いといわれるほど雨が深い屋久島において、林内の多湿の環境も作用して苔が生じやすく、その苔が樹上で土の代わりに機能しているためと学んだ。昭和の中期まで屋久杉の素材生産がなされており、その伐採から搬出までの林業作業や当時の生活風景を映像や解説から知見を得た。その他に、屋久杉はゆっくり成長した結果、年輪幅が詰まっており、また普通の杉より樹脂が多いこともあり、腐りにくいという特徴を学んだ。その特徴から「土埋木」（図 2）という江戸時代や近代に林地に伐り残された屋久杉の材木（風倒等も含む）が木工資源として利用され、高額で取引されていることを学んだ（工芸品も高級品）。

森林生態系においては、鹿児島県の南の海上に位置しながら、標高 1900m を超える九州最高峰の山があるため、亜熱帯から亜寒帯に近い冷温帯の植生まで垂直分布的に存在していることを学んだ。また五葉松の仲間種子島と屋久島にしか自生していない絶滅危惧種ヤクタネゴヨウの巨木（大きさでは屋久杉に負けないほど）を視察し、利用の歴史や保全活動について学んだ。

野生動物においては、ヤクシカによる農林業や植生への被害が本土と同様に発生しており、防護柵の設置や有害駆除の実施をしていた。また、食肉としての流通も徐々に実施されるようになっていた。研修中に目撃したヤクシカは、距離にして 3m ぐらい近くを通っても逃避行動を示さなかったため、警戒心が本州より弱い印象を感じた（図 3）。また、体の大きさが本州のシカの半分ほどの大きさ（子の大きさ程度）であった。

プロの登山ツアーガイドにおいては、解説、時間管理、ペース配分、トラブル時の対処、補助装備の貸出などのプロの対応方法を体験することができた。特記としては、トレッキングシューズのソールが剥がれた人に対処したときのアイテムに工夫が施されていた（ゴム装着の簡易スパイクを細工したもの）。

#### 4. おわりに

本研修において世界自然遺産の島「屋久島」の森林と林業、人間との関わりについて相互的・歴史的に学ぶことがテーマになっており、屋久島の数千年も生き続ける巨木をはじめとする亜熱帯から冷温帯までの豊かな自然が残されている一方で、屋久杉やヤクタネゴヨウなどを木材資源として利用して生活文化を築き上げてきた屋久島の歴史を学ぶことができた。我々の演習林においては、天然生林として、モミ・ツガ針葉樹林やブナ・ミズナラなどの広葉樹林が残されており、また天然生では無いものの江戸時代に植林された樹齢 200 年を超えるスギが保存されており、今回学んできたことを今後の森林管理に活かしていきたい。



図 1. 縄文杉（胸高周囲長 16.4m）  
（登山研修にて）



図 2. 搬出された土埋木（貯木場にて）



図 3. ヤクシカの子（登山研修にて）